

投稿! オレンジ広場 スタート!

「終活」ではなく「継活」をしよう

いまや「就活」や「婚活」の向こうを張って、市民権を得た感がある。「終活」なる言葉には異論がある。というより、耐えられない。

人が世に生を受けて以降、命をかけて人生を歩み、その間、営々と積み重ねてきた物心両面にわたる一切を心置きなく無事に次世代へと継承することこそが、人生を集大成する活動ではないだろうか。

それは、「終(わるための)活(動)」＝「終活」ではなく「継(承するための)活(動)」、すなわち「継活(けいかつ)」と称する方がふさわしいと私には思える。

事実、日本には古来、慶事の終わりをあえて「終わり」と言わず、「お開き」と称する素晴らしい言語の感性があり、今に続いている。また、生物学的見地からも、子孫は両親の精

子と卵子の結合であることを考えれば、人は死なない(終わらない)。さらに、子孫の有無にかかわらず、その思想や教え、有形無形の文化的所産(書簡、詩歌、絵画、音楽など)は確実に残され、次世代に引

き継がれて発展し続けている。シニア世代が取り組むべきは「終活」ではない。「継活」であるべきだ。(横浜市・79歳、小林源) 【編集局から】 投稿ありがとうございます。遺産

相続や遺言作成など、遺していく家族に対する「終活」は大切ですが、「終わり」の活動だけでは寂しい。もっと前向きな、次の世代に何かを伝える活動ができれば、人生の晩年も再び輝くでしょう。「継活」という言葉、これから夕刊フジの紙面でも大いに使わせていただき、秋の新紙面でも関連の企画を考えたいと思います。

市川の先輩、ビクターOB小林源さんの投稿です。

示唆に富む内容です!